

三宅レナさん(言4年)「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」に合格

文部科学省「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」第12期派遣留学生に、三宅レナさん(言4年)が採用された。三宅さんには留学準備金と奨学金(月額)が給付される。

三宅さんは、5月から「日系企業のビジネス現場における通訳の重要性」をテーマに来年3月までメキシコに留学する予定。初めの3か月はメキシコ国立自治大学付属の語学学校でスペイン語習得を目指す。その後、日本貿易振興機構(JETRO)メキシコ事務所にて2週間のインターンシップ、自動車部品を製造する日系企業で通訳業務のインターンシップを計画している。(※記載は採用時点の計画です)

三宅さんは将来、企業の通訳になることを目指している。今回の留学は、スペイン語を実践の場で使用することを目的の1つとしている。「2年生の時に、キャリアセンターの主催する業界セミナーに参加した。その時に説明して下さったJETROの方が、今回のインターンシップ受け入れの際にも各方面と調整して下さった。協力してくれた方々の厚意に報いるためにも、留学では様々なことを吸収したい」と意気込みを語った。

澤田祥鷹さん(独4年)独検1級に1位で合格

よしたか
澤田祥鷹さん(独4年)が、昨年12月から今年1月にかけて行われた2019年度冬期ドイツ語技能検定試験(以下独検)1級に1位で合格した。独検は日本の団体が主催している唯一のドイツ語検定試験。

1級の成績優秀者は、1次試験と2次試験の得点合計により順位が決まる。2019年度は219名が受験し、合格率は20.55%だった。その中で、澤田さんは見事1位となった。合格しての感想を伺うと「合格したことが分かったときは、素直に嬉しかったです。これだけでも十分すぎるくらいでしたが、しばらくして1位での合格だったと通知が来たときは本当に驚きました」と笑みを浮かべた。

最後に「語学は根気強く学び続けることが重要だと感じました。また、今回は同じ級を受けた友人がいました。同じ目標を持って勉強している人がいることは、モチベーションの面でも大きく影響すると思います」と語った。

(学生記者/初澤)



獨協大学英語教育研究会(DUETA) 第24回講演会を開催

2月15日、東棟E-311教室で、獨協大学英語教育研究会(DUETA)による第24回講演会が開催された。演題は「小学校外国語・外国語活動の今ー草加市の英語教育の実践から」。講師の小野陽子氏(草加市教育委員会)は、2020年度より全面実施となる新学習指導要領を見据え、外国語教育の充実を推進している草加市の小学校での取り組みや中学校との連携を考えた授業について話した。その後参加者は、草加市語学指導助手の若月パトリア氏とともに言語活動を実際に体験し、変わりつつある英語教育の現場について理解を深めていた。講演会には小中高の教員、本学在学学生・卒業生を含め、学内外から約70名が参加した。

■獨協大学英語教育研究会(Dokkyo University English Teaching Association:DUETA)は、英語教育に携わっている本学の卒業生、または将来携わりたいと考えている本学の学生を始め、広く一般に英語教育に携わっている人、あるいは英語教育に関心のある人を対象とし、互いに交流を深めることを目的として活動している。



草加市の取り組みを説明する小野氏



来場者は模擬授業を体験した

OB・OG学内訪問会を実施しました

2月8日、キャリアセンターは3年生を対象に「OB・OG学内訪問会」を開催した。これは、これから就職活動を本格的に始める学生に対して、企業等に勤めている卒業生が実体験に基づいたアドバイスを行うことを目的に、毎年同時期に実施しているもの。今年は、学生約150名、様々な業界から卒業生29名の参加があった。

主催したキャリアセンターの遠藤良雄課長は「在学学生は、就職活動支援に熱心な卒業生から直接自己PRに対する指導を受け、その後それぞれの企業・団体に現在活躍する社会人の立場から業界、仕事内容など様々な生の声を聞くことができ、大変有意義な機会になった。今後、本格化する就職活動に自信をもって乗り切れると確信している」と語った。

参加した梅原朱里さん(交4年)は「他の学生もいる中で自己PRを披露したので、集団面接の練習にもなった。社会人の方に指摘された点を改善し、自己分析をさらに進めていきたい」と感想を述べた。

